国士舘100周年創立記念祭

水泳部

国士舘大学水泳部の歩み

創立と歴代指導者

国士舘大学水泳部は，昭和34年に創立，故三隅一成教授（体育心理学）によって指揮され，創部当初は部員11名にてスタートした。創部当時の練習環境は学内にプールが無かったため，他校のプールを借用して練習を行っていた。

翌昭和35年7月に，日本水泳連盟公認屋外プール（長水路）が世田谷キャンパス内に竣工し，学内での本格的な練習が始まった。初代の指導者は三隅一成教授が部長を務め，監督は本木彰氏であった。

昭和44年4月には，水泳部のさらなる躍進と発展のために，当時高等学校水泳界で第一の実力者であると定評のあった，大分県佐伯鶴城高等学校の岡田正一教諭（東京オリンピック女子監督）を水泳部監督に迎えた。しかしながら，岡田監督は，白血病により在職十か月で死去された。岡田監督の後任として，インターハイ優勝監督として日本水泳界で実力者であった末廣力教諭（山口県立柳井商工高等学校・1964年東京オリンピック男子コーチ）を新たに監督として迎え入れた。

昭和58年7月には，鶴川キャンパスに日本水泳連盟公認屋外プール（長水路）が完成した（鶴川プール）。このプールの特徴は，プール内壁面にフォームがチェックできる窓が備え付けられ，医務室，教室，スタンドや照明も設置され，音響設備も最新のものが導入された。更に鶴川プールは，自動塩素注入装置の設置など常に設備の改善がなされている。

昭和59年4月からは，本学出身の橡本安司コーチ（水泳部OB）が就任した。その後本学出身の泉敏郎研究助手（水泳部OB、現帝京平成大学専任講師）が水泳部の指導者の一員に加わった。

平成4年10月からは，平成4年4月東京大学医学部整形外科学教室よりスポーツ医学を担当すべく赴任した松本高明助教授（当時日本水泳連盟医・科学委員・バルセロナオリンピック競泳ヨーロッパ合宿担当ドクター，現日本水泳連盟学生委員会学生委員長，現体育学部教授・博士（医学））が，監督に就任し，末廣力部長と共に水泳部の指導にあたった。

平成6年から平成10年4月まで，コーチとして本学出身の岩原文彦氏（水泳部OB、現国士舘大学体育学部および理工学部非常勤講師・日本水泳連盟競泳委員・博士（体育科学））が指導にあたった。

平成13年4月から再度松本高明助教授が，部長と監督を兼任し，青葉貴明助手（水泳部OB、筑波大学大学院修了，現昭和大学非常勤講師）、平成14年9月から八尋大コーチ（水泳部OB、体育学部出身）、平成16年4月から和田壮生コーチ（水泳部OB、21世紀アジア学部卒、大学院スポーツ・システム研究科修了）と，本学出身の三氏が指導に加わった。

平成19年4月には，理工学部理工学科健康医工学系に本学体育学部出身の和田匡史准教授（水泳部OB、日本体育大学大学院，徳島大学大学院修了，現理工学部教授，スタンフォード大学医学部客員教授・博士（医学））が赴任し，監督に就任した。

平成25年4月には本学初の屋内プール（日本水泳連盟公認，短水路，水深3m可動床、SEIKO社製PT-8000記録装置設置）が，世田谷キャンパスに竣工した。

平成27年度から水泳部より，シンクロナイズドスイミング部門が独立し，日本の大学初の単独シンクロナイズドスイミング部が設立された。部長は松本高明教授（水泳部兼務），監督は足立夢実職員（水泳部OG、ロンドンオリンピック日本代表）が就任した。

また、水泳部内に女子水球部門が設立され、監督に飛田菜七子職員（東京女子体育大学出身、元女子水球日本代表候補，平成28年度女子水球日本代表コーチ）が就任した。

平成28年度より理工学部理工学科健康医工学系に地神裕史准教授（理学療法士，日体協AT，新潟大学大学院修了，博士（医学），リオデジャネイロオリンピックシンクロ日本代表トレーナー）が赴任し，水泳部チーフトレーナーとして指導に加わった。

水泳部の現在のスタッフは，松本高明部長、和田匡史監督，地神裕史監督代行兼チーフトレーナー、飛田菜七子女子水球監督，コーチに八尋大氏，和田壮生氏，江田佳子氏（体育学部教務助手），草野伸行氏（国士舘大学公開講座水泳講師），トレーナーに吉岡大翼氏（本学OB）、佐田静香氏，内山陽子氏，野矢翔太氏，山口工氏（本学OB），アシスタントコーチに遠藤太陽氏（本学OB），田中宏樹氏（本学OB），栄養アドバイザーとして内藤祐子体育学部教授，アドバイザーとして橋大輔氏（（株）日本水泳振興会、MCHプール），泉敏郎氏（本学OB），中村毅氏（本学OB），岩原文彦氏（本学OB），岡島佑樹氏（本学OB），川嶋奈緒子氏（本学OG），島田大輔氏（本学OB）という充実した体制の下，活動を行っている。

国士舘大学水泳部　戦績

■活動記録

【インカレ（学生選手権）】

大学選手権大会の団体戦においては，昭和41年に総合6位となり初のシード校に入った。その後，昭和42年総合5位，昭和43年総合6位，昭和44年総合5位，昭和45年総合5位，昭和47年総合5位，さらに昭和48年，49年と総合4位となり，続けてシード校入りなし，まさにこの時が水泳部の黄金時代といえる。その後，全国の大学で屈内温水プールの設立が相次ぎ，屋外プールで豊富な練習量を誇っていた本学も，通年で屋内プールを使用して行われる各大学の練習量に次第に太刀打ちできなくなり，徐々に戦績が低迷することとなった。また，屋内温水プールのないことが，さらに選手獲得に困難な面を生じることとなった。そのために，数年間日本選手権に出場する選手がいない時期もあった。ここ十数年来は，東京都立大学（現首都大学東京）屋内プール，玉川大学屋内プール，専修大学屋内プール，高井戸スイミングスクール，セントラルスポーツ府中，NAS永山，多摩スポーツ会館，川崎イトマンスイミングスクール，東京DC駒沢，協栄スイミングスクール，アクラブ堀之内など，多くのプールが無償で本学水泳部の練習のために提供された。これらプールの賃借に当たっては，卒業生以外にも多大な協力を頂いている。

近年は，少ない部員数にも拘らず，関東学生選手権で一部と二部を入れ替える成績が続く中，平成9年一部6位，平成10年一部5位，平成11年一部6位となった。平成19年からは部員数も徐々に増加し，平成19年は一部6位，平成20年一部6位，平成21年一部8位，平成22年一部5位と一部定着し，平成28年までの一部を保守して日本学生選手権への団体出場を確実なものとした。

日本学生選手権では，平成10，11年度に日本選手権にも出場した2名の選手（庄司慎，坂井俊大）が決勝に進出，入賞（50，100，200，400m自由形）し，18年度は女子200m背泳ぎでB決勝8位（井出恵美），19年度には男子100mバタフライでB決勝7位（沖田貴嗣），平成21年無水で行われた大会では，男子100mバタフライで井上新太3位表彰台に上がった。平成22年は，男子100mバタフライB決勝6位（井上新），男子50m自由形B決勝7位（鈴木和樹），男子400mフリーリレーB決勝6位（兵頭洋樹，鈴木和樹，松木行永，井上新）と得点を挙げた。平成23年は，男子400mフリーリレーB決勝5位（兵頭洋樹，岡田哲哉，鈴木和樹，松木行永），男子50m自由形B決勝3位（兵頭洋樹），同B決勝7位（鈴木和樹），男子200mバタフライB決勝4位（中野達也）が決勝に勝ち上がった。また女子はこの年に関東学生選手権2部総合優勝を果たし，初の一部昇格およびインカレ団体出場を決め，インカレでは女子100mバタフライB決勝7位（三原未夕）となり，インカレにて初の団体得点を挙げた。平成24年からは，決勝進出者がさらに増え，男子50m自由形A決勝8位（兵頭洋樹），男子100m自由形A決勝8位（兵頭洋樹），岡田哲哉，鈴木和樹，松木行永），男子400mフリーリレーB決勝2位（兵頭洋樹，岡田哲哉，鈴木和樹，松木行永），同B決勝7位（鈴木和樹），男子100mバタフライB決勝5位（井田憲吾）であった。平成25年は，男子100mバタフライA決勝8位（井田憲吾），男子800mフリーリレーB決勝7位（田中宏樹，遠藤太陽，二宮大地，中道壮大），男子400mメドレーリレーB決勝6位（田中宏樹，水本遼也，小坂部聡士（予選：井田憲吾），岡田哲哉），男子50m自由形B決勝5位，女子100mバタフライA決勝5位（三原未夕），女子100mバタフライB決勝7位（坂戸里実）であった。平成26年は，男子リレー3種目で決勝に進出した。男子400mフリーリレーB決勝8位（佐藤瑛司，中道壮大，原田啓義，石川虎太），男子800mフリーリレーB決勝7位（遠藤太陽，大村航汰（予選：福山直人），原田啓義，二宮大地），男子400mメドレーリレーB決勝7位（守永隆，岡島佑樹（予選：阿部悠希），小坂部聡士，石川虎太），男子100m背泳ぎB決勝7位（守永隆）であった。平成27年は関東学生選手権で男子総合優勝した勢いをそのままインカレに持ち込み，男子400mメドレーリーでシード校を破って入決勝（8位：守永隆，岡本悠希，五十嵐涼，石川虎太）に進出し，個人でも守永隆が男子100m背泳ぎでA決勝7位，遠藤太陽が男子400m自由形でA決勝7位となった。また，男子800mフリーリレーB決勝4位（原田啓義，大村航汰，福山直人，遠藤太陽），男子400m個人メドレーB決勝3位（遠藤太陽）となり，近年最高の成績（男子総合12位62点）を収めた。女子は，福岡夏菜恵が50m自由形でB決勝2位となった。平成28年は，男子400mフリーリレーB決勝6位（守永隆，嶋田笑合，原田啓義，二宮大地），男子400mメドレーリーB決勝8位（須貝和彦（予選：守永隆），笹木洸平，五十嵐涼，嶋田笑合），男子100m背泳ぎB決勝6位（守永隆），男子100mバタフライB決勝6位（五十嵐涼），女子50m自由形B決勝8位（伊賀崎ひかる），女子200m背泳ぎB決勝8位（大田原礼奈）であった。

女子競泳は，平成23年度に関東学生選手権2部総合優勝，1部昇格を果たし，平成24年度から1部に定着している。

男子競泳は関東学生選手権において，平成25年度1部総合第3位，平成26年度1部総合第2位と着実に総合成績をあげ，平成27年度は32年ぶり2回目の関東学生選手権1部総合優勝を果たした。この大会では最終日最終種目の男子800mフリーリレーまで他大学に1点のリードを許していたが，リレーのアンカーを務めた遠藤太陽（理工学部4年）が，約3秒リードされていた差を0.02秒差で逆転し，800mフリーリレーの優勝と男子総合優勝（1点差）を勝ちとった。

【オープンウォータースイミング（OWS）】

2006年に行われた第1回オープンウォータースイミング日本選手権において，女子団体で優勝し選手権獲得校となった。その後，2008年度女子団体優勝，2010年度男子団体優勝と連続して選手権を獲得してきた。

【トレーニング】

日本水泳界は，世界の競泳のトレーニングの中でも先進的な役割を果たしている。その水泳に関する科学的な研究成果をいかに練習時間，環境に制限のある本学水泳部に取り入れていくかが今後の課題である。現在は，その制限の中で定期的な血中乳酸濃度測定，ビデオ画像による動作分析，準高地トレーニングなどを行い，選手の強化に努めている。

【国際大会（オリンピック，ユニバーシアード，競泳ワールドカップなど）】

国際大会に選出された優秀選手としては，昭和48年ユニバーシアードモスクワ大会日本代表の浜野隆樹（バタフライ），昭和60年パンパシフィック東京大会，昭和61年ユニバーシアードマドリード大会，ソウルアジア大会，ソウルオリンピック日本代表の三浦広司（バタフライ），三浦選手はソウルアジア大会において2個の金メダルを獲得し，100メートルバタフライでは，当時のアジア新記録を樹立した。近年では，競泳において，2008年短水路世界選手権日本代表に阿部太輔（大学院スポーツ・システム研究科修了）が選出され，シンクロナイズドスイミングでは，2004年アテネオリンピックシンクロナイズドスイミング日本代表として銀メダルを獲得，2008年北京オリンピック日本代表の川嶋奈緒子（体育学部卒，大学院スポーツ・システム研究科修了）をはじめとし，加賀谷優希（体育学部卒）が日本代表選手として2006年世界ジュニア選手権出場，足立夢実（体育学部卒）が日本代表選手としてローマオープン，2009年世界水泳，2010年アジア大会，2012年ロンドンオリンピックに出場，杉山美紗（体育学部卒）が2010年アジア大会に出場を果たし，世界の舞台で活躍している。

平成22年10月に日本で初めて開催された競泳ワールドカップ東京大会では，4名の選手（井上新（体育学部4年），兵頭洋樹（体育学部2年），鈴木和樹（体育学部1年），井田憲吾（理工学部1年））が出場し，井上新が男子50mバタフライで決勝に進出し5位（日本人2位）という結果を残した。

平成24年度は，岡島佑樹（理工学部2年）が日本選手権（短水路）において，50m平泳ぎで26秒66の短水路日本タイ記録で優勝した。

平成25年度は，前述の岡島佑樹（理工学部3年）が日本選手権兼国際大会派遣選考会にて男子50m平泳ぎで2位に入賞し，第29回ユニバーシアード大会（カザンの日本代表に選出された。

平成28年に行われたリオデジャネイロオリンピックには小関夏乃（体育学部）がシンクロナイズドスイミング日本代表として出場し，3大会ぶりのメダルの獲得に貢献した。

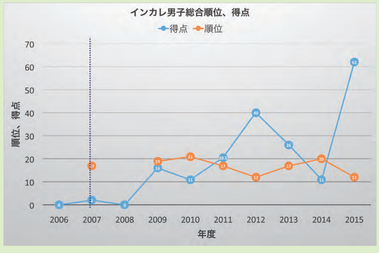
（参考文献：国士舘大学体育学部五十年誌）

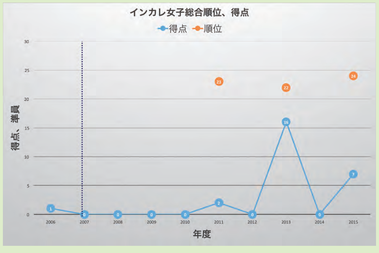
■最近の競技成績

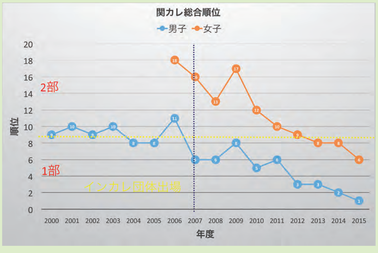
平成28年度	関東学生選手権	男子1部5位（54点），女子1部6位（54.5点）
	日本学生選手権	男子団体18位（14点），女子団体28位（2点）
平成27年度	関東学生選手権	**男子1部優勝**（103点），女子1部5位（48点）
	日本学生選手権	男子団体12位（62点），女子団体24位（7点）
平成26年度	関東学生選手権	男子1部2位（105点），女子1部8位（25点）
	日本学生選手権	男子団体20位（11点），女子団体出場
平成25年度	関東学生選手権	男子1部3位（69.5点），女子1部8位（35.5点）
	日本学生選手権	男子団体17位（26点），女子団体22位（16点）
平成24年度	関東学生選手権	男子1部3位（66点），女子1部9位（9点）
	日本学生選手権	男子団体12位（40点），女子団体出場
平成23年度	関東学生選手権	男子1部6位（54点），**女子2部優勝**（127点）**1部昇格**
	日本学生選手権	男子団体17位（20.5点），女子団体23位（2点）
平成22年度	関東学生選手権	男子1部5位（74点）1部残留，女子2部3位（60点）
	日本学生選手権	男子団体21位（11点）
平成21年度	関東学生選手権	男子1部8位（37点）1部残留，女子2部7位
	日本学生選手権	男子団体19位（16点）
平成20年度	関東学生選手権	男子1部6位（26点）1部残留，女子2部4位
	日本学生選手権	男子団体出場
平成19年度	関東学生選手権	男子1部6位（31.5点）1部残留，女子2部7位
	日本学生選手権	男子団体17位（2点）

5年間の歴代主将

	男子	女子
2013	岡田哲哉	三原未夕
2014	小坂部聡士	篠村美優輝
2015	福山直人	江田佳子
2016	二宮大地	田所瑞花
2017	横谷直人	和泉　唯







政経学部校舎起工式及びプール落成式

水泳部記念撮影

平成 28 年度　関東学生選手権

平成 28 年度　関東学生選手権

平成 28 年度　関東学生選手権

平成 28 年度　関東学生選手権

平成 28 年度　関東学生選手権

平成 28 年度　関東学生選手権

関カレ 1 部男子総合優勝